

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------------|----------------------|----------------|------------|
| 事業所番号 | 1473500708 | 事業の開始年月日 | 平成18年3月1日 |
| | | 指定年月日 | 平成18年3月1日 |
| 法人名 | 株式会社ケアネット徳洲会 | | |
| 事業所名 | グループホーム湘南かさま | | |
| 所在地 | (247-0006) | | |
| | 神奈川県横浜市栄区笠間3丁目20番27号 | | |
| サービス種別 定員等 | ■ 認知症対応型共同生活介護 | 定員計 | 18名 |
| | | ユニット数 | 2 ユニット |
| 自己評価作成日 | 令和3年10月1日 | 評価結果 市町村受理日 | 令和3年12月17日 |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

24時間体制での医療連携と「その人らしさ」を尊重した「御看取り」までのトータルケアを日々実践している。看取り期の入居者様に於いては、自宅で最期を迎えているかのように、御家族には、御本人が一人ぼっちにならないよう、可能であれば泊まって頂き、職員と共に最期のお見送りをさせて頂いている。慢性的人材不足が問題としてあるものの、入居者様本位の最良のケアを提供していく為、「入居者様の思い」「御家族様の思い」に寄り添い、安全で安心できる環境作りを心掛けている。外出がままならない今、気分転換に、玄関の前のベンチに佇み、唄い慣れた歌を唄って、職員と一緒に外気浴を楽しんでいる。

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|-------------------------------------|---------------|-----------|
| 評価機関名 | 株式会社フィールズ | | |
| 所在地 | 251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年11月16日 | 評価機関 評価決定日 | 令和3年12月6日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR「大船」駅からバスで5分位のバス停「笠間町」で下車、徒歩6分位の所にあります。幹線道路に面しておりますが、周囲には高層マンションが多く、保育園や障がい者施設、公園があり、比較的静かな環境にあります。

<優れている点>

コロナ禍でも感染防止対策を行い町内会長、地区社協会長、民生委員、家族代表など多くの参加を得て短時間の運営推進会議を開催し情報交換を行っています。開かれた施設として、地域住民との交流を大切にしています。コロナ禍の今は中止していますが、利用者は地域の行事に参加し、ボランティアの来訪もあります。道路を隔てた隣の大規模な障害者施設の利用者と交流を深めています。利用者も地域住民のひとりとして地域の中で暮らせるように支援をしています。家庭的でゆったりとした環境の中で、いきいきとした暮らしが取り戻せるよう自己決定を尊重し、今持っている能力を活かしながら認知症の症状の改善や進行の防止に努めています。

<工夫している点>

コロナ禍により面会を中止していた時は「おたより」で利用者のホームでの様子を月に1回家族に送り、家族の安心につなげていました。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

| 評価項目の領域 | 自己評価項目 | 外部評価項目 |
|------------------------------|---------|---------|
| I 理念に基づく運営 | 1 ~ 14 | 1 ~ 10 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 15 ~ 22 | 11 |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 23 ~ 35 | 12 ~ 16 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 36 ~ 55 | 17 ~ 23 |
| V アウトカム項目 | 56 ~ 68 | |

| | |
|-------|--------------|
| 事業所名 | グループホーム湘南かさま |
| ユニット名 | 1階 |

| V アウトカム項目 | | | |
|-----------|---|---|----------------|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | レ | 1, ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2, 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3, 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4, ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | レ | 1, 毎日ある |
| | | | 2, 数日に1回程度ある |
| | | | 3, たまにある |
| | | | 4, ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | レ | 1, ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3, 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4, ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37) | レ | 1, ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3, 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4, ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | | 1, ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3, 利用者の1/3くらいが |
| | | レ | 4, ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | レ | 1, ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3, 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4, ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | レ | 1, ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3, 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4, ほとんどいない |

| | | | |
|----|--|---|----------------|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | レ | 1, ほぼ全ての家族と |
| | | | 2, 家族の2/3くらいと |
| | | | 3, 家族の1/3くらいと |
| | | | 4, ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | レ | 1, ほぼ毎日のように |
| | | | 2, 数日に1回程度ある |
| | | | 3, たまに |
| | | | 4, ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | レ | 1, 大いに増えている |
| | | | 2, 少しずつ増えている |
| | | | 3, あまり増えていない |
| | | | 4, 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | | 1, ほぼ全ての職員が |
| | | レ | 2, 職員の2/3くらいが |
| | | | 3, 職員の1/3くらいが |
| | | | 4, ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | レ | 1, ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3, 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4, ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | | 1, ほぼ全ての家族等が |
| | | レ | 2, 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3, 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4, ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域と事業所との関係性を重視した理念を大切にしている。理念が日々のケアに活かされているか確認し合っている。 | 事業所理念は「入居者様本位」で毎朝唱和をして確認しています。職員は利用者一人ひとりの自己決定を尊重しています。利用者と地域との関係強化に力を入れ、開かれた施設として、利用者が社会生活を行えるよう支援しています。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 新型コロナウイルスにより、地域の行事やイベントが中止になってしまっているが、運営推進会議のなかで、地域の方々と情報交換を行う繋がりを継続している。 | コロナ禍の今は中止となっていますが、盆踊り、障害者施設、保育園との交流、地域ボランティアの来訪もあります。運営推進会議で町会長から諸活動が徐々に動き始めてきているなどの情報も得ています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 音楽療法が中止となってしまっているが、継続的に隣接の障害者施設の職員さんたちとは、定期的に行き来しコロナに負けないよう励まし合っている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 緊急事態宣言化であっても、2か月に1回地域の方々と意見交換や助言を頂く為、感染対策を徹底しながら、短時間ではあるが、会議を継続して行っている。 | コロナ禍でも市の職員か地域包括支援センター職員、町内会会長、民生委員、家族代表の参加を得て短時間の運営推進会議を開催しています。活動状況の報告、要望に対する取組、ヒヤリハット報告、地域との情報交換を行っています。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。 | 横浜市独自のグループホーム助成該当の有無を尋ねたり、認定更新の機会に区の担当者へ利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝え、連携している。運営推進会議にも参加頂き、ホームの実情を見て頂いている。 | 介護認定更新の際には利用者の現状報告や施設での暮らしぶりを伝えていきます。助成該当の有無などの書類提出の助言や指導を得ています。運営推進会議の参加を得て担当職員との協力関係が得られるように取り組んでいます。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束に準ずるセンサーの設置にも毎月の全体会議で解除出来ないかどうかの有無を話し合い、職員一人一人が言葉の暴力を行っていないかどうか振り返りの時間を設け、職員一人一人が、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 | 「身体拘束適正化の指針」を整備し「身体拘束等適正化委員会」を毎月開催し職員研修は年2回開催しています。身体拘束を行わないことを運営規程にも明示しています。「チェックシート」により振り返りを行い身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。 | |
| 7 | 6 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 勉強会等実施し、高齢者虐待法について学ぶ機会をもち、虐待がないよう理解の浸透、その遵守に向けた取り組みを行っている。 | 高齢者虐待防止法の勉強会を実施し、虐待の早期発見に努めています。職員の自覚がないまま、疲労やストレスが不適切なケアにつながり利用者に影響していないか、心理的虐待はないか、など注意を払い虐待の防止につとめています。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 研修等の機会を設け、職員への理解を深めるよう努めている。 家族には、必要に応じて成年後見制度について情報提供を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 利用料金や起こりうるリスク、重度化への予測、看取りについての対応、医療連携体制について、時間を十分にとり詳しく丁寧に説明を行い、家族の理解を得て同意を頂いている。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 家族には毎月のお便りをお送りし、個々に訪問されるご家族には、意見や要望を伺い、管理者・職員で話し合い、日々の業務の運営に役立て、入居者の要望にも耳を傾ける姿勢を忘れないよう努めている。 | 毎月「おたより」で利用者の個別の様子を家族に郵送しています。家族との信頼関係を重視し、家族から出された意見はノートに記載し管理者、職員で共有し運営に反映しています。利用者の意見は日常の会話の中から汲み取っています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 職員が自由に意見が言える様な雰囲気作りを大切にしている。全体会議、フロア会議、朝礼、カンファレンス等意見や提案を尋ねる機会を設け、運営に活かせるよう努めている。 | 管理者は日頃から自由に意見が言える雰囲気づくりを心掛け職員の気づきを大切に意見を聞いています。ケアや業務の改善案が多く、出された意見は会議で検討しています。年2回の個別面談では普段話せないことや要望、意見、悩みなどを聞く機会としています。 | |
| 12 | 9 | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 正職者はスキルアップ評価を実施。半年に1回評価について面談を行い、非常勤にも自己評価をしてもらい、管理者のアドバイスを受けながら、自己研鑽を行ってもらっている。 | 管理者は職員と年に2回個人面談を行い努力や成果を認め、また人間関係の改善を図り働きやすい職場環境の整備に努めています。正職員はスキルアップ評価を行い、非常勤職員も自己評価を行い、各自が向上心をもって働けるように努めています。 | |
| 13 | 10 | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 法人として、実務者研修や介護福祉士の資格取得を金銭面でもサポートし、取得出来る環境を整えている。メンタル面でも、不安がないか。また体調不良を起こしていないか、管理者はきめ細やかな職員の把握に努め、意欲的に取り組める雰囲気作りを大切にしている。 | 法人は職員育成の重要性を認識し質の向上のため資格取得制度を設けています。研修を受けた職員は研修報告書を作成し全職員で共有をしています。新人職員には1対1のOJT体制を取り、ケア技術や利用者とのかかわり方の指導もしています。中途採用者研修も実施しています。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。 | 法人内で施設長会議、中途採用者研修を実施している。法人内のグループホームの職員間で、活発な意見交換を行っている。他の施設の良い点を参考にしながら、質の向上に努めている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | まず笑顔で接し、観察的アセスメントを実施。多岐に渡る情報収集を行い、本人の思いや要望を受け止めながら、本人に響く、効果的なコミュニケーションを模索しながら、安心して頂けるよう、信頼関係の構築に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | これまでの苦労を労い、今迄の経過をじっくり伺いながら、共感し最初の関わりを大切にしている。家族と早い段階で信頼関係を築けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 家族・入居者とのきめ細やかなアセスメントを通して、希望する他のサービスにも対応している。また他のサービスに繋げるためのネットワーク作りに努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 支援する側される側という意識を持たず、暮らしの中で、共に支え合う関係作りに努めている。また安心して、穏やかに一日を過ごして頂ける様な支援を、常に心掛けている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 本人と家族が築き上げた絆を共感しながら、家族と共に本人を温かい心で受け止めながら、共に支える姿勢で、肩の力を抜いた、自然な関係性を目指している。 | | |
| 20 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | はがきでやり取りする、友人や遠方の娘さんとの関係を大切にし、甥御さんの声を聞きたいと要望があれば、電話で繋ぎ、本人の思いの受容に努めている。 | コロナ禍のため面会禁止で手紙や電話でのやりとりが主でしたが、非常事態宣言解除の今は家族や友人、知人の面会が可能となり、来訪時には居室で面談をしています。しかし、外出や外泊、散歩はもう少し先になりそうです。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 入居者同士が、ひょっとしたきっかけでトラブルにならないよう見守りながら、入居者同士の関係が上手くいくよう、声掛けを行っている。入居者と職員が笑顔の絶えない一日を過ごせる環境作りに努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | 亡くなられた入居者のご主人に対し、孤独にならないよう、地域包括の職員に定期的に訪問を依頼したり、支援が必要であれば相談に乗って頂けるようお願いをしている。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 声掛けや入居者との会話からコミュニケーションをとり、入居者の言葉や表情から確認するようにしている。職員全員が入居者の一人一人の思いや要望に耳を傾け、受け止める事を心掛けている。 | コロナ禍においても外出したい、家族に会いたいという利用者の希望を把握するように心掛けています。意思表示が困難な人も、「私を見て、聞いて、」などの意思を持っていることを深く理解し、傾聴しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 家族が来訪された際、積極的に話を聞くようにしている。プライバシーに配慮し、過去の情報収集を家族に協力頂き、情報を出来るだけ集め、個別のアセスメントを作成し、個々人の生活に活かす支援を行っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 今出来ている事に着目し、有する力を出来る限り発揮できるよう努めている。職員間で一日の様子を細かく確認し、新しい気づきを得ながら、その日の心身状態を、総合的に把握できるよう努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | チームで一人一人の入居者の介護計画を作成している。カンファレンスでは、計画作成担当者が、職員の意見を吸い上げ、介護計画に反映しながら、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、話し合っている。 | 介護計画は6ヶ月ごとに見直し、入退院など状態の変化があれば家族、医師・看護師、職員の意見を参考に、状況に即した介護計画を作成しています。家族を通じてマッサージや終末期の入浴など介護保険外のサービス提供も含めて作成しています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 1枚の排泄チェック表の中に、身体の状態が分かるような記入方法で、職員間で共有し、訪問看護に情報を伝えている。また入居者の心の変化など個別記録に記入し、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | 柔軟な支援に取り組む手段として、訪問歯科・訪問マッサージを取り入れている。また要望に応じて訪問理容を実施している。家族に会えない寂しさを、何度でも電話で取り次ぎながら、心の落ち着きを取り戻して頂いている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 町内会の自治会長・地区社協会長・民生委員・相談役と地域の要の役割を担う方々と交流を深めながら、安心と安全そして豊かに生活できるよう、地域の方々と協働している。 | | |
| 30 | 14 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 毎月主治医が、訪問診療に来て下さり、希望者は訪問歯科を利用している。訪問看護は、24時間のオンコールで、必要時主治医に繋げてくれている。眼科の受診は、家族の希望する病院に、家族が付き添って通院して頂いている。 | 新型コロナウイルスのワクチン接種を機に、主治医が近くの医師に変わりました。これによって日頃の対応が密になり、緊急時には法人グループの大病院が対応する体制に強化されました。看護師は法人グループから2名で来訪し、きめ細かい対応をしています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 訪問看護と連携をとって、日々の少しの変化も伝えて改善の方向への助言を頂いている。体調の状態変化を把握し、急変時や早期発見に訪問看護と共有し速やかな対応が出来るよう、心掛けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された入居者が早期に退院できるよう、入院先と情報共有を強化している。主治医・訪問看護との情報共有も強化しながら、スムーズにホームでの生活に戻るよう支援している。 | | |
| 33 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 「看取りに関する指針」を入居時に家族に丁寧に説明し、職員は個別の看取り期を前に研修を行い、看取り後の振り返りを必ず実施して、職員一人一人の死生観教育を向上させる実践を行っている。 | 医師の判断に基づいて、家族からの希望も織り込んで看取りの介護計画を作成しています。「観察表」を看護師と共有しながら連携を密に対応しています。ホームとしての看取りの経験も積んで、事前の研修も含め、新人職員をフォローする体制ができています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 夜勤時の緊急時対応等、いざという時に慌てない様、危機管理マニュアルに基づき、全体会議やカンファレンスで再確認し合い、全員が実践力を身に付けている。AED講習会も積極的にやっている。 | | |
| 35 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 年2回避難訓練を実施している。また消防署所長からは、適切なアドバイスを頂いている。防災マニュアルも適宜更新している。水害時の避難訓練も適宜実施している。 | 想定している災害として、地震、火災とともに水害があります。消防からのアドバイスもあり、1階の利用者を早めに2階に避難するよう計画しています。災害用備蓄は法人が食料を、事業所は水を中心に3日分以上を用意しています。 | 食料品の災害用備蓄は法人が集中的に管理し、ホームでの備蓄は水を中心におやつ程度のものである体制となっています。様々な状況を想定するとう少しホームでの備蓄を厚くする方向での検討が期待されます。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 17 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 本人の思いを大切に考え、自然なさりげないケアを心掛けている。自己決定しやすい言葉かけに努めながら、プライバシー保護や守秘義務の周知徹底を心掛けている。 | 利用者の人格を尊重するケアを徹底しています。認知症特有の周辺症状から入居者同士のちょっとした口論などありますが、職員が正論を言ってさらに状況を悪くしないよう指導しています。うまく気をそらしたりタイミングを見計らって説明したりと工夫しています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 職員が決めたことを押し付けるのではなく、色々な案を考え、ご自身で決めて頂けるように努めている。また意思表示出来ない方には、表情や顔色を伺いながら、思いを察し、自己を表出出来るよう心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 入居者の目線に合わせ、入居者の様子を常に観察しながら、一人一人のペースに合わせた暮らしの支援に努め、個々の希望に沿った暮らしを、柔軟に対応出来るよう心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 一人一人の拘りのスタイルを大切に、その人らしい身だしなみや、自分好みのおしゃれが出来るよう支援している。意思疎通困難な方には、整容の乱れ、食べこぼし等清潔保持出来るような支援を行い、毎日を気持ちよく過ごして頂けるよう心掛けている。 | | |
| 40 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 一人一人がおいしく召し上がれるよう、笑顔で声掛けし、飲み込みの悪い方には、ミキサー食を提供し、必ずおいしく食べられるよう、味を確かめながら提供している。定期的に新しい食器を購入し、気分を変えて食を楽しんで頂いている。 | 職員の負担軽減のため、調理済みのレトルトの食事を提供しています。おやつは様々なものを提供しています。誕生日にはできるだけ家族も一緒に参加できるように誕生会は工夫し開いています。コロナ禍により出来なかった外食ができるのを楽しみにしています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 利用者の一日の栄養摂取量や水分の確保に気を配り、介助するスピードのタイミングを計り介助している。出来るだけ自分で召し上がって頂けるよう声を掛け、個人の食習慣も大切にしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 自立度に合わせ、毎食後自発的に口腔ケアが行えるよう支援している。また定期的に訪問歯科を利用し、口腔ケアの実施や口腔内の清潔保持の為のアドバイスを医師や衛生士より頂いている。 | | |
| 43 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 立ち上がり困難な方でも、トイレで気持ちよく排泄して頂けるよう、二人介助で介助している。プライバシーに配慮しながら、排泄チェック表を活用し、一人一人の能力に合わせた残存を活かした排泄支援を実施している。 | トイレは各階に普通のトイレが2ヶ所、車いす用の広いトイレが1ヶ所あります。立ち上がりが困難な入居者にも、できるだけトイレで排泄できるように2人介助をしています。また自然排便ができるよう、1日1000mlの水分摂取と運動を伴うレクリエーションをしています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 自然排便が出来るよう、水分量の確保や乳製品等を提供し、レクリエーションに短時間でも運動を取り入れて、便秘の原因を見極め、なるべく薬に頼らない支援を心掛けている。 | | |
| 45 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。 | 入居者の生活習慣を大切にし、自己決定出来、入浴を楽しんで頂くよう支援している。浴室や湯の温度に注意を払っている。湯はその都度交換し、入浴剤や季節感を味わって頂けるよう、ゆず湯などを提供している。 | 入浴は週2～3回となっています。衛生面の配慮から湯は一人ずつ交換しています。重度の利用者には2人介助でシャワー浴にしています。入浴の好き嫌いもあるので、入浴剤などで気分を変えて楽しめるよう工夫しています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 入居者の生活習慣を把握し、日中の活動を促しながら、夕方からの過ごし方が落ち着いたものになるよう、安心して眠れる環境整備をチームで取り組んでいる。体力に合わせ、日中の臥床の支援も行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 利用者一人一人に使用されている薬の目的や副作用・用法用量について理解し支援している。カンファレンスでは、職員が個個人の服薬に対する理解と知識を深め、変更には確認を全員が共有している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 利用者の楽しみや役割を見つけて、喜びを共に実感している。また気分転換に、玄関前のベンチに一緒に佇んだり、レクリエーションを行ったりしながら、日々の生活にリズムを付ける支援を行なっている。 | | |
| 49 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | コロナウイルス感染症により、外部者との接触が出来ない事が多く、面会制限等で家族と会えなかったりしているが、外に出たいと希望される方には、個別にスタッフが寄り添って、玄関前のベンチに座り込み、本人の思いを容れる時間を設けている。 | 現在利用者の平均年齢は88歳ですが介護度は平均2.66と比較的低く、外出希望が多いのが現状です。道路を挟んだすぐ隣の身体障害者施設の庭へよく行っていますが、コロナの影響で今は自粛しています。現在は玄関前で外の空気を吸うことで気分転換を図っています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 化粧水や乳液等、今迄愛用したものを、お預かりしているお金の中から、職員が代わりに購入して、御本人に渡している。また好きな色や絵柄のクッションの要望を受け、ご自分のお金で職員が購入し、隣りの利用者に笑顔で見せたりしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 家族や友人に電話したいと言われた時は、プライバシーに配慮し、居室でかけて頂いている。家族に電話したいとの訴えがあれば、何度でも電話し、家族と協力しながら、話をして頂き、不安を取り除いて頂いている。 | | |
| 52 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | リビングルームのソファで、テレビを見ながら、利用者同志で、会話が弾むように、職員も一緒になって会話に参加している。手引きの方もいっしょり、動線に注意を払っている。季節を感じるタペストリー等を飾り、四季を味わって頂いている。 | リビングルームは広く明るく、壁面には季節のタペストリーや誕生会の写真が飾られて楽しい雰囲気となっています。大きなソファとテーブルが配置され、利用者はソファに座り、テレビを見ながら会話をして穏やかに過ごしています。清掃もよく行き届いています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 相性の良い人との席の配慮を行い、個人のペースに合わせ、心地よい場所で過ごして頂けるよう努めている。また思いを伝えられない入居者に対しては、表情等でキャッチし、居室に戻って頂き、くつろいで頂く誘導等を行っている。 | | |
| 54 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 小さい頃からピアノに慣れ親しんだ方には、使用していたピアノを持参して頂き、弾きたい時には、自由に弾いて頂きながら、居心地よく過ごして頂けるよう支援している。 | 照明とエアコンが備えられています。その他ベッドやカーテンなど必要な家具は自宅から自由に持ち込んでいます。馴染みのある置物や思い出の品々をたくさん持ち込んだり、居室で昼寝をし、リフレッシュをしている利用者もいます。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 一人一人の出来る事出来ない事を見極め、移動時等、手摺りの使用や手引き歩行、後方からの見守り等その方に合わせた安全な移動方法を見極め、自立した生活が送れるよう支援している。 | | |

| | |
|-------|--------------|
| 事業所名 | グループホーム湘南かさま |
| ユニット名 | 2階 |

| V アウトカム項目 | | | |
|-----------|---|---|----------------|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | レ | 1, ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2, 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3, 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4, ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | レ | 1, 毎日ある |
| | | | 2, 数日に1回程度ある |
| | | | 3, たまにある |
| | | | 4, ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | レ | 1, ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3, 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4, ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37) | レ | 1, ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3, 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4, ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | | 1, ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3, 利用者の1/3くらいが |
| | | レ | 4, ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | レ | 1, ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3, 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4, ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | レ | 1, ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3, 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4, ほとんどいない |

| | | | |
|----|--|---|----------------|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | レ | 1, ほぼ全ての家族と |
| | | | 2, 家族の2/3くらいと |
| | | | 3, 家族の1/3くらいと |
| | | | 4, ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | レ | 1, ほぼ毎日のように |
| | | | 2, 数日に1回程度ある |
| | | | 3, たまに |
| | | | 4, ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | レ | 1, 大いに増えている |
| | | | 2, 少しずつ増えている |
| | | | 3, あまり増えていない |
| | | | 4, 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | | 1, ほぼ全ての職員が |
| | | レ | 2, 職員の2/3くらいが |
| | | | 3, 職員の1/3くらいが |
| | | | 4, ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | レ | 1, ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2, 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3, 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4, ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | | 1, ほぼ全ての家族等が |
| | | レ | 2, 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3, 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4, ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域と事業所との関係性を重視した理念を大切にしている。理念が日々のケアに活かされているか確認し合っている。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 新型コロナウイルスにより、地域の行事やイベントが中止になってしまっているが、運営推進会議のなかで、地域の方々と情報交換を行う繋がりを継続している。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 音楽療法が中止となってしまっているが、継続的に隣接の障害者施設の職員さんたちとは、定期的に行き来しコロナに負けないよう励まし合っている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 緊急事態宣言化であっても、2か月に1回地域の方々と意見交換や助言を頂く為、感染対策を徹底しながら、短時間ではあるが、会議を継続して行っている。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。 | 横浜市独自のグループホーム助成該当の有無を尋ねたり、認定更新の機会に区の担当者へ利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝え、連携している。運営推進会議にも参加頂き、ホームの実情を見て頂いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束に準ずるセンサーの設置にも毎月の全体会議で解除出来ないかどうかの有無を話し合い、職員一人一人が言葉の暴力を行っていないかどうか振り返りの時間を設け、職員一人一人が、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 | | |
| 7 | 6 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 勉強会等実施し、高齢者虐待法について学ぶ機会をもち、虐待がないよう理解の浸透、その遵守に向けた取り組みを行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 研修等の機会を設け、職員への理解を深めるよう努めている。 家族には、必要に応じて成年後見制度について情報提供を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 利用料金や起こりうるリスク、重度化への予測、看取りについての対応、医療連携体制について、時間を十分にとり詳しく丁寧に説明を行い、家族の理解を得て同意を頂いている。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 家族には毎月のお便りをお送りし、個々に訪問されるご家族には、意見や要望を伺い、管理者・職員で話し合い、日々の業務の運営に役立て、入居者の要望にも耳を傾ける姿勢を忘れないよう努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 職員が自由に意見が言える様な雰囲気作りを大切にしている。全体会議、フロア会議、朝礼、カンファレンス等意見や提案を尋ねる機会を設け、運営に活かせるよう努めている。 | | |
| 12 | 9 | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 正職者はスキルアップ評価を実施。半年に1回評価について面談を行い、非常勤にも自己評価をしてもらい、管理者のアドバイスを受けながら、自己研鑽を行ってもらっている。 | | |
| 13 | 10 | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 法人として、実務者研修や介護福祉士の資格取得を金銭面でもサポートし、取得出来る環境を整えている。メンタル面でも、不安がないか。また体調不良を起こしていないか、管理者はきめ細やかな職員の把握に努め、意欲的に取り組める雰囲気作りを大切にしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。 | 法人内で施設長会議、中途採用者研修を実施している。法人内のグループホームの職員間で、活発な意見交換を行っている。他の施設の良い点を参考にしながら、質の向上に努めている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | まず笑顔で接し、観察的アセスメントを実施。多岐に渡る情報収集を行い、本人の思いや要望を受け止めながら、本人に響く、効果的なコミュニケーションを模索しながら、安心して頂けるよう、信頼関係の構築に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | これまでの苦労を労い、今迄の経過をじっくり伺いながら、共感し最初の関わりを大切にしている。家族と早い段階で信頼関係を築けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 家族・入居者とのきめ細やかなアセスメントを通して、希望する他のサービスにも対応している。また他のサービスに繋げるためのネットワーク作りに努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 支援する側される側という意識を持たず、暮らしの中で、共に支え合う関係作りに努めている。また安心して、穏やかに一日を過ごして頂ける様な支援を、常に心掛けている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 本人と家族が築き上げた絆を共感しながら、家族と共に本人を温かい心で受け止めながら、共に支える姿勢で、肩の力を抜いた、自然な関係性を目指している。 | | |
| 20 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | はがきでやり取りする、友人や遠方の娘さんとの関係を大切にし、甥御さんの声を聞きたいと要望があれば、電話で繋ぎ、本人の思いの受容に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 入居者同士が、ひよっとしたきっかけでトラブルにならないよう見守りながら、入居者同士の関係が上手くいくよう、声掛けを行っている。入居者と職員が笑顔の絶えない一日を過ごせる環境作りに努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | 亡くなられた入居者のご主人に対し、孤独にならないよう、地域包括の職員に定期的に訪問を依頼したり、支援が必要であれば相談に乗って頂けるようお願いをしている。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 声掛けや入居者との会話からコミュニケーションをとり、入居者の言葉や表情から確認するようにしている。職員全員が入居者の一人一人の思いや要望に耳を傾け、受け止める事を心掛けている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 家族が来訪された際、積極的に話を聞くようにしている。プライバシーに配慮し、過去の情報収集を家族に協力頂き、情報を出来るだけ集め、個別のアセスメントを作成し、個々人の生活に活かす支援を行っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 今出来ている事に着目し、有する力を出来る限り発揮できるよう努めている。職員間で一日の様子を細かく確認し、新しい気づきを得ながら、その日の心身状態を、総合的に把握できるよう努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | チームで一人一人の入居者の介護計画を作成している。カンファレンスでは、計画作成担当者が、職員の意見を吸い上げ、介護計画に反映しながら、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、話し合っている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 1枚の排泄チェック表の中に、身体の様子が分かるような記入方法で、職員間で共有し、訪問看護に情報を伝えている。また入居者の心の変化など個別記録に記入し、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | 柔軟な支援に取り組む手段として、訪問歯科・訪問マッサージを取り入れている。また要望に応じて訪問理容を実施している。家族に会えない寂しさを、何度でも電話で取り次ぎながら、心の落ち着きを取り戻して頂いている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 町内会の自治会長・地区社協会長・民生委員・相談役と地域の要の役割を担う方々と交流を深めながら、安心と安全そして豊かに生活できるよう、地域の方々と協働している。 | | |
| 30 | 14 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 毎月主治医が、訪問診療に来て下さり、希望者は訪問歯科を利用している。訪問看護は、24時間のオンコールで、必要時主治医に繋げてくれている。眼科の受診は、家族の希望する病院に、家族が付き添って通院して頂いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 訪問看護と連携をとって、日々の少しの変化も伝えて改善の方向への助言を頂いている。体調の状態変化を把握し、急変時や早期発見に訪問看護と共有し速やかな対応が出来るよう、心掛けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された入居者が早期に退院できるよう、入院先と情報共有を強化している。主治医・訪問看護との情報共有も強化しながら、スムーズにホームでの生活に戻れるよう支援している。 | | |
| 33 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 「看取りに関する指針」を入居時に家族に丁寧に説明し、職員は個別の看取り期を前に研修を行い、看取り後の振り返りを必ず実施して、職員一人一人の死生観教育を向上させる実践を行っている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 夜勤時の緊急時対応等、いざという時に慌てない様、危機管理マニュアルに基づき、全体会議やカンファレンスで再確認し合い、全員が実践力を身に付けられるよう努めている。AED講習会も積極的に行っている。 | | |
| 35 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 年2回避難訓練を実施している。また消防署所長からは、適切なアドバイスを頂いている。防災マニュアルも適宜更新している。水害時の避難訓練も適宜実施している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 17 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 本人の思いを大切に考え、自然なさりげないケアを心掛けている。自己決定しやすい言葉かけに努めながら、プライバシー保護や守秘義務の周知徹底を心掛けている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 職員が決めたことを押し付けるのではなく、色々な案を考え、ご自身で決めて頂けるように努めている。また意思表示出来ない方には、表情や顔色を伺いながら、思いを察し、自己を表出出来るよう心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 入居者の目線に合わせ、入居者の様子を常に観察しながら、一人一人のペースに合わせた暮らしの支援に努め、個々の希望に沿った暮らしを、柔軟に対応出来るよう心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 一人一人の拘りのスタイルを大切にし、その人らしい身だしなみや、自分好みのおしゃれが出来るよう支援している。意思疎通困難な方には、整容の乱れ、食べこぼし等清潔保持出来るような支援を行い、毎日を気持ちよく過ごして頂けるよう心掛けている。 | | |
| 40 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 一人一人がおいしく召し上がれるよう、笑顔で声掛けし、飲み込みの悪い方には、ミキサー食を提供し、必ずおいしく食べられるよう、味を確かめながら提供している。定期的に新しい食器を購入し、気分を変えて食を楽しんで頂いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 利用者の一日の栄養摂取量や水分の確保に気を配り、介助するスピードのタイミングを計り介助している。出来るだけ自分で召し上がって頂けるよう声を掛け、個人の食習慣も大切にしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 自立度に合わせ、毎食後自発的に口腔ケアが行えるよう支援している。また定期的に訪問歯科を利用し、口腔ケアの実施や口腔内の清潔保持の為のアドバイスを医師や衛生士より頂いている。 | | |
| 43 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 立ち上がり困難な方でも、トイレで気持ちよく排泄して頂けるよう、二人介助で介助している。プライバシーに配慮しながら、排泄チェック表を活用し、一人一人の能力に合わせた残存を活かした排泄支援を実施している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 自然排便が出来るよう、水分量の確保や乳製品等を提供し、レクレーションに短時間でも運動を取り入れて、便秘の原因を見極め、なるべく薬に頼らない支援を心掛けている。 | | |
| 45 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。 | 入居者の生活習慣を大切にし、自己決定出来、入浴を楽しんで頂くよう支援している。浴室や湯の温度に注意を払っている。湯はその都度交換し、入浴剤や季節感を味わって頂けるよう、ゆず湯などを提供している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 入居者の生活習慣を把握し、日中の活動を促しながら、夕方からの過ごし方が落ち着いたものになるよう、安心して眠れる環境整備をチームで行っている。体力に合わせ、日中の臥床の支援も行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 利用者一人一人に使用されている薬の目的や副作用・用法用量について理解し支援している。カンファレンスでは、職員が個個人の服薬に対する理解と知識を深め、変更には確認を全員が共有している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 利用者の楽しみや役割を見つけて、喜びを共に実感している。また気分転換に、玄関前のベンチに一緒に佇んだり、レクリエーションを行ったりしながら、日々の生活にリズムを付ける支援を行なっている。 | | |
| 49 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | コロナウイルス感染症により、外部者との接触が出来ない事が多く、面会制限等で家族と会えなかったりしているが、外に出たいと希望される方には、個別にスタッフが寄り添って、玄関前のベンチに座り込み、本人の思いを 수용する時間を設けている。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 化粧水や乳液等、今迄愛用したものを、お預かりしているお金の中から、職員が代わりに購入して、御本人に渡している。また好きな色や絵柄のクッションの要望を受け、ご自分のお金で職員が購入し、隣りの利用者に笑顔で見せたりしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 家族や友人に電話したいと言われた時は、プライバシーに配慮し、居室でかけて頂いている。家族に電話したいとの訴えあれば、何度でも電話し、家族と協力しながら、話をして頂き、不安を取り除いて頂いている。 | | |
| 52 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | リビングルームのソファで、テレビを見ながら、利用者同志で、会話が弾むように、職員も一緒になって会話に参加している。手引きの方もいらっしやり、動線に注意を払っている。季節を感じるタペストリー等を飾り、四季を味わって頂いている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 相性の良い人との席の配慮を行い、個人のペースに合わせ、心地よい場所で過ごして頂けるよう努めている。また思いを伝えられない入居者に対しては、表情等でキャッチし、居室に戻って頂き、くつろいで頂く誘導等を行っている。 | | |
| 54 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 小さい頃からピアノに慣れ親しんだ方には、使用していたピアノを持参して頂き、弾きたい時には、自由に弾いて頂きながら、居心地よく過ごして頂けるよう支援している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 一人一人の出来る事出来ない事を見極め、移動時等、手摺りの使用や手引き歩行、後方からの見守り等その方に合わせた安全な移動方法を見極め、自立した生活が送れるよう支援している。 | | |

2021年度

事業所名 グループホーム湘南かさま
 作成日： 令和3 年 12 月 15 日

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|---|---|--|------------|
| 1 | | 職員の高齢化が進んでいる。 70歳前後の人も多く、若い職員の採用が、育成を含めて急務である。 | 来年度は、本社を交え高齢の職員の労働時間数の見直しを行いその時間数を採用に回し、職員の若返りを図る。 | 個別面談を何回か実施し、職員と話し合っ、若い世代の職員が中心になってホームを支えられる環境整備。高齢職員は、若手職員をバックアップする。 | 6ヶ月 |
| 2 | | 管理者の交代がスムーズに出来ない | 管理者も高齢となり、次期施設長候補が退職などによりいない状況なので、グループからの異動もしくは該当者の採用を早急を実施する | 来年度は、本社に関わってもらい採用の面談を強化していく。 | 6ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |